

4. ブナ帯の樹種更改技術

1. 試験担当者

東北支場育林部長	山谷 孝一
育林第一研究室長	古川 忠 ほか
育林第二研究室長	加藤 亮 助 ほか
育林第三研究室長	藤田 桂 治 ほか

2. 試験目的

東北地方のブナ帯上部に設定した樹種更改試験地および各種造林地の環境、生長調査をおこない、この地帯における樹種更改の可能性について究明する。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

1. 弘前営林署管内、岩木山樹種更改試験地

弘前営林署管内岩木地区で実施しており、施肥および混植の2試験区からなる。植栽後10年を経過しており、樹高はカラマツ5.2～5.4m、スギ4.4～4.7m、トドマツ2.3m、シラカバ、コバノヤマハンノキ4.0～6.0mである。最近雪害があらわれてきたが、被害程度はトドマツ>カラマツ>スギの順である。

2. 川井営林署管内早池峯山樹種更改試験地

高海拔地帯のヒバ林を伐採した場合の植栽適応樹種を見出す目的で、外国産4種、日本産5種の樹種を植栽し、生長調査をおこなってきた。44年度の調査では、樹高直徑生長はカラマツ>ドイツウヒ>スギ・トドマツ>オウシユウアカマツ・アカエゾマツの順であり、カラマツはもっとも良好である。800m前後の高海拔地で湿性ボドゾルの性格をおびているが、スギは比較的良好な生長を示している。保護樹として混植したカラマツは、一応目的を達したので今後、整理する方針である。

4. 昭和45年度の試験計画

1. 岩木山試験地 秋期 枝打（スギ、カラマツ） 区画整理
2. 手代沢試験地 秋期 区画整理 生長調査
3. 早池峯山試験地 混植カラマツの整理 スギ植栽
4. 安家試験地 区画整理 生長調査